

# 地方都市視察報告書

環境建設委員会

- 1 実施日  
令和5年12月20日（水）・21日（木）



- 2 視察地 大阪府大阪市

## 【市の概要】

- (1) 面積 225.33 km<sup>2</sup>  
(2) 人口・世帯数（令和5年11月1日現在）  
推計人口 2,772,680 人  
推計世帯数 1,533,767 世帯

- (3) 大阪市は、1889年（明治22年）に市制を施行。大阪府、近畿地方および西日本の行政・経済・文化・交通の中心都市であり、市域を中心（首位都市）として、大阪都市圏および京阪神大都市圏が形成されている。大阪市の2019年度（令和元年度）の市内総生産は約21兆円で、政令指定都市中最大であり2倍から3倍の人口を擁する北海道や千葉県、兵庫県など1つの道府県の県内総生産に相当する。京阪神大都市圏の圏内総生産は、国内では首都圏に次ぎ、世界的にも上位にある。また市内の従業者数、事業所数、上場企業本社数は共に東京都区部に次いで国内2位である。夜間人口は東京都区部、横浜市に次いで全国3位の約270万人、人口密度は全国の市で5位（政令指定都市中で1位）、昼間人口は市外から多くの通勤・通学者が流入するため東京都区部に次ぐ約364万人となる。面積は全国に20市ある政令指定都市の中でも川崎市、堺市、さいたま市に次ぎ4番目に小さく東京都区部のおよそ3分の1、横浜市のおよそ半分、名古屋市のおよそ3分の2程度であるが政令指定都市の中では行政区が24区と最大であるため面積が10km<sup>2</sup>に満たない行政区がほとんどである。

- 3 視察項目・内容

- (1) 「再エネ100宣言 RE Action」の取組について（12月20日（水））  
(2) 歩行者優先のまちづくりと駅前広場について（12月21日（木））

- 4 視察参加者

## 【委員】

池田だいすけ委員長	沢田あゆみ副委員長	木もとひろゆき委員
たなえひさし委員	杉山直子委員	志田雄一郎委員
野もとあきとし委員	えのき秀隆委員	ひやま真一委員
さわいめぐみ委員		

## 【随員】

議会事務局議事係 黒木 明子 設楽 拓也

## 5 視察結果・所感

### (1) 「再エネ 100 宣言 RE Action」の取組について

大阪市では、「2050 年（令和 32 年）温室効果ガス排出量実質ゼロ」の実現に向けて、再生可能エネルギーの普及拡大に取り組むこととしており、その取組の一つとして再生可能エネルギー由来の電力（以下、「再エネ電力」）の調達促進を掲げている。

再エネ電力を利用する事業者を掘り起こし全国の発電事業者とのマッチングを促進する「再エネ電力調達マッチング事業」のほか、府と協定を締結した事業者が太陽光パネル等の購入希望者を募り設置をサポートする「太陽光パネル及び蓄電池の共同購入支援事業」、再エネ電力を共同購入する希望者を募り利用を促進する「再エネ電力の共同購入支援事業」等、きめの細かい支援の取組を展開していた。

近年の資源価格高騰の影響により予測通りに進んでいない状況や、再エネ電力導入にあたってコスト増を敬遠する事業者も一定数いる中で、引き続き地道な取組・啓発や、コストを抑える技術開発や導入の必要性を強く感じさせられた。

また、国の交付金制度を活用した、地元企業との共同提案による「カーボンニュートラルストリート『御堂筋』」において、市の担当者が御堂筋エリアの該当する 43 社に対し個別に事業内容を丁寧に説明し合意形成に努めているほか、府と市で取り組むエネルギー関連のアクションプログラムには、数多くの施策が盛り込まれており、「2050 年（令和 32 年）CO<sub>2</sub>排出量実質ゼロ」の実現を目指す新宿区でも大変参考になる視察であった。

### (2) 歩行者優先のまちづくりと駅前広場について

「歩行者優先のまちづくりと駅前広場について」をテーマに、「なんば駅周辺における空間再編推進事業」及び「御堂筋将来ビジョン実現に向けて」の取組を視察した。

「なんば駅周辺における空間再編推進事業」では、2011 年（平成 23 年）に地元商店街等を中心に構成された協議会の設立以降、なんば駅周辺空間の将来像について議論が重ねられ、再編に係る基本計画が策定された。その後、社会実験を経て、市において事業化され、引き続き民間との連携も行われている。

目に見える大きな成果として、周辺の交通や安全面をしっかりと調査・検証した上で、タクシープールであった駅前広場の中心部を、通常時は休憩や待ち合わせ、地域の魅力を情報発信するための居心地の良い空間として、災害時は防災の拠点となるよう再編した。道路の有効活用という観点からは、新宿区の歌舞伎町シネシティ広場と同様のつくりとなる広場であった。

また、「御堂筋将来ビジョン実現に向けて」では、「御堂筋将来ビジョン」において、「車から人中心の空間への転換」、「道路空間を最大限に活かした利活用、アクティビティの誘導」、「都市のリノベーションを推進、成長を支える」、「持続的なまちづくり」をコンセプトとして整備を進めていく計画が示され、なんば駅から 900 メートルほどの区間において、御堂筋の側道の歩行者空間化工事が完了している状況であった。

道路協力団体制度や歩行者利便増進道路制度を活用し、交通処理やにぎわい創出、公民連携の手法等を検証する社会実験を実施しながら、将来的には御堂筋を人中心のフルモール（歩行者専用道路）化することを目指す計画となっている。

新宿区においても、2040年代に完了を目指している新宿駅西口周辺の再整備計画が進められていく中で、車から人中心の空間への転換をはじめとする各種コンセプトや公共空間の有効活用というテーマは、にぎわいにあふれる新宿のまちづくりを展開していくために必要な要素であり、課題の解決に向けて有意義な視察となった。

## 6 主な質疑項目

### (1) 「再エネ100宣言 RE Action」の取組について

- (ア) 「再エネ100宣言 RE Action」のアンバサダー就任の経緯とその取組について
- (イ) 「再エネ100宣言 RE Action」に取り組んでいる企業との関係について
- (ロ) 事業所等による再生可能エネルギー電力導入に向けた効果的な取組について
- (ハ) 再生可能エネルギーの利用促進とエネルギー量及びスケールメリットについて
- (ニ) 再エネ電力の共同購入支援事業や調達マッチング事業について
- (ホ) CO<sub>2</sub>の排出量削減にむけた様々な取組における大阪府と大阪市の役割分担について
- (ヘ) 環境省の「脱炭素先行地域づくり事業」を活用したカーボンニュートラルストリート「御堂筋」の取組について
- (ヘ) カーボンニュートラルストリート「御堂筋」の推進に向けた需要家との合意形成の状況や今後の進め方について
- (ケ) 大阪万博でのCO<sub>2</sub>排出量について
- (コ) メガソーラー建設に関する見解について

### (2) 歩行者優先のまちづくりと駅前広場について

- (ア) 御堂筋将来ビジョン実現に向けた取組について
- (イ) なんば駅周辺における空間再編推進事業について
- (ロ) 「御堂筋道路空間再編事業」「なんば駅周辺空間再編事業」によるにぎわい創出の効果と今後の事業の進め方について
- (ハ) 事業実施のための市民の声の集約・合意形成の取組等について
- (ニ) 参考にした外国の制度について
- (ホ) 自転車走行禁止ルールについて
- (ヘ) なんば駅周辺の放置自転車対策や客引きの解消について
- (ケ) 交通規制や荷捌きのルール策定について
- (コ) 治安警備員・防犯カメラの設置等検証について

## 7 その他

### 【共同理事者】

### (1) 「再エネ100宣言 RE Action」の取組について

環境清掃部 環境対策課長 小野川 哲史

### (2) 歩行者優先のまちづくりと駅前広場について

新宿駅周辺整備担当部 新宿駅周辺基盤整備担当課長 小野 浩一



大阪市担当課からの説明・質疑  
(12月20日(水)・21日(木))



なんば広場の視察  
(12月21日(木))



なんば広場